

[成果情報名] 加工・業務用に適した1～3月どりレタスの大玉生産のための品種と株間

[要約] レタスの1～2月どり栽培において、加工・業務用に適する球重700g、球緊度0.3程度の締まり過ぎない大玉用品種として、「LE-7MT」が適する。株間を43cmとすると35cmの場合と比較して収穫日は早まるが、収穫時の重量・球緊度は同程度である。

[キーワード] レタス、1～3月どり栽培、加工・業務用、球緊度、品種

[担当] 香川農試 野菜・花き部門

[連絡先] 電話 087-889-1121

[区分] 近畿中国四国農業・野菜

[分類] 技術・参考

[背景・ねらい]

レタスの加工・業務用途においては加工歩留まりが重視され、一球重が重く、葉が締まりすぎずカット後にほぐれやすい大玉階級が求められている。また、これらのニーズに対応した大玉生産は作付株数あたりの収量増につながり生産性の向上も期待できる。しかし、現状の1～3月どり栽培での市場出荷用品種「レイヤード」、「シグマ」等は、厳寒期には市場用規格を超える大玉生産が難しく、一球重が重くなると葉が締まりすぎて加工・業務用途には適さない。そこで、加工・業務用の大玉生産のために、適した品種について検討するとともに、株間を広げた場合の効果について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 1～3月どり栽培において「LE-7MT」(シンジェンタシード)は、球重が重くなっても球緊度が高まりにくく、実需者への聞き取り調査をもとに定めた加工・業務用レタスの目標である球緊度0.3程度で700～800gの球重を確保できる品種である(図1、2)。

2. 球重と球緊度の関係は、株間を慣行の35cmに対して43cmにしても同様に推移し、球緊度0.3の時の球重は同等となる(図1)。したがって株間は収量の点から35cmが適する。ただし、株間を広げると球重の増加が早くなり3～4日程度収穫時期が早まる(データ省略)。

3. 「LE-7MT」の球形は、市場向けの慣行品種「レイヤード」に比較して腰高球や中肋突出球になりやすい(表1)が、加工業務用途の実需者評価では許容範囲である。

[成果の活用面・留意点]

1. 本成果は最も大玉になりにくい1～3月どり栽培の品種選定であり、年内どり栽培、春どり栽培では「LE-7MT」は球緊度が低すぎる傾向にある。

[具体的データ]

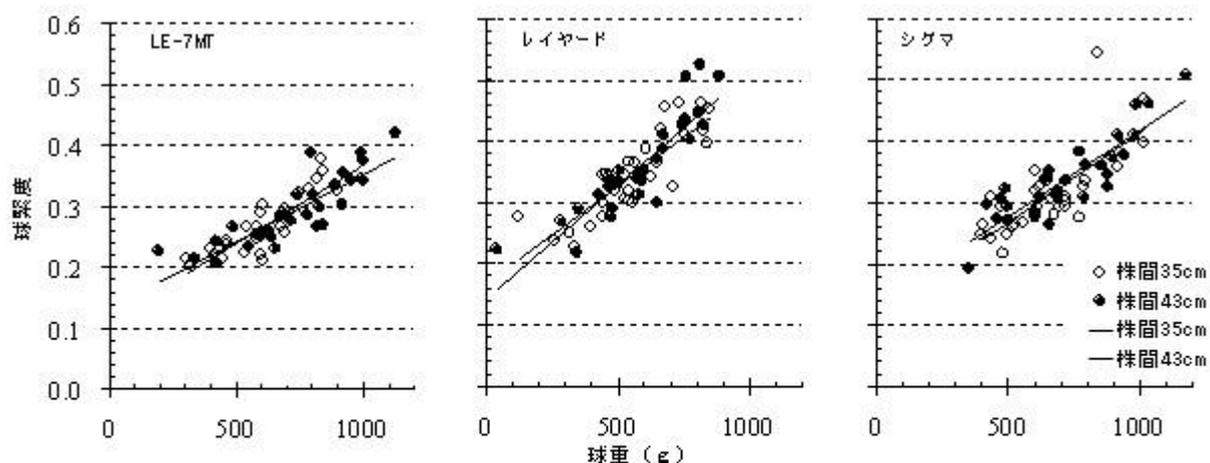


図1 球重と球緊度の関係(2006年)

播種日 10月17日、定植日 11月13日、畝幅 160cm、条間 30cm 3条千鳥植え。

施肥量：N29.4、P16.6、K19.8 (kg/10a)

調査は 2月16、19、22、26日の4回、各6株を採取した。

球緊度は球の容積と球重から求めた球の比重であり、高いほど球が締まっていることを表す。

算出式として [球緊度 = 球重量 ÷ (球高 × 長球径 × 短球径 × 3.14 ÷ 6)] を用いた。



「レイヤード」
球重 715g 球緊度 0.40

「LE-7MT」
球重 759g 球緊度 0.29

図2 品種の違いによる球締まりの相違

表1 品種と収穫時重量、大きさ、品質(2007年)

品種	地上部重 g	結球重 g	s.d.	球高 cm	平均球径 cm	球高 /球径	球緊度	異常球発生程度		
								腰高	中肋	変形
レイヤード	905	567 ± 109.8		13.1	14.2	0.92	0.41	0.0	0.3	0.1
LE-7MT	1011	685 ± 94.0		16.7	16.1	1.04	0.32	0.9	1.5	0.2

播種10月19日、定植11月14日、畝幅160cm、条間30cm、株間35cm、3条千鳥植え、施肥量：N29.4、P16.6、K19.8 (kg/10a)

3月6日調査、1区15株、2反復の平均

異常球発生程度は 無い：0、軽度：1、重度：2 の指数で各球を評価し平均した

[その他]

研究課題名：実需者ニーズに対応した暖地レタスの省力低コスト生産方式の開発

予算区分：委託プロ（加工プロ1系）

研究期間：2006～2008年度

研究担当者：藤村耕一、松崎朝浩